

# 東北地方 3か月予報

(12月から2月までの天候見通し)

平成19年11月22日  
仙台管区気象台発表

## <予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

12月 東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。寒暖の変動が大きい見込みです。

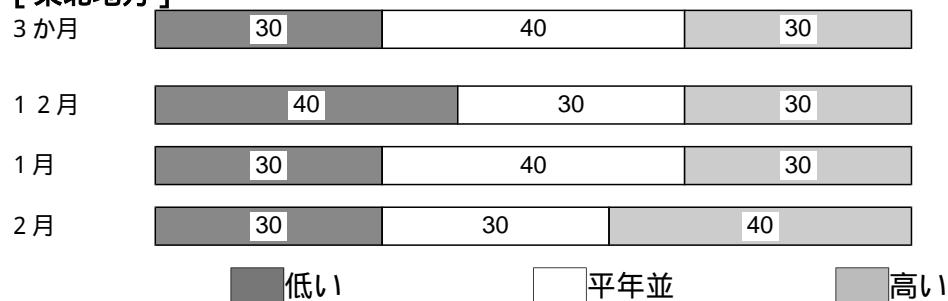
1月 東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。寒暖の変動が大きい見込みです。

2月 東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

## <向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>

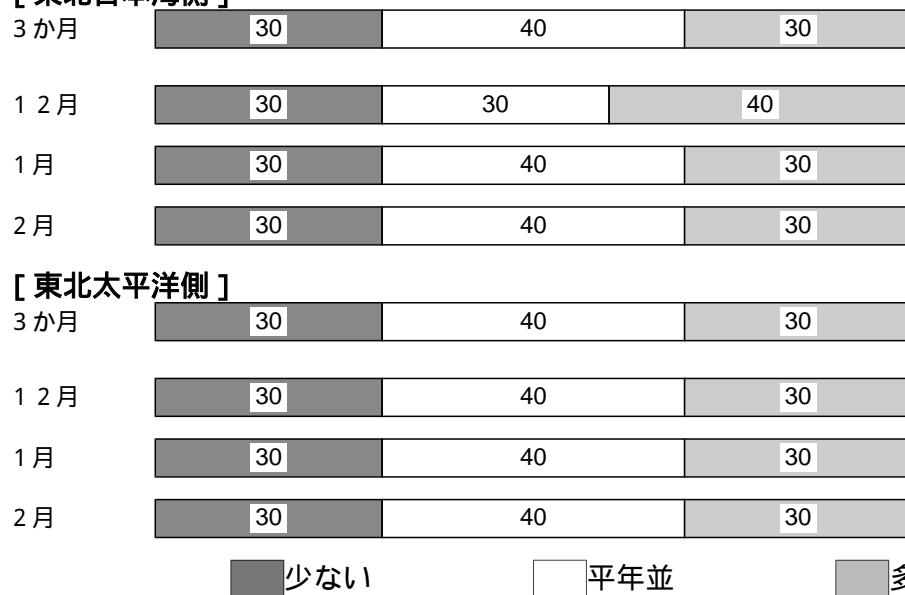
### <<気温>>

#### [東北地方]



## <<降水量>>

### [東北日本海側]

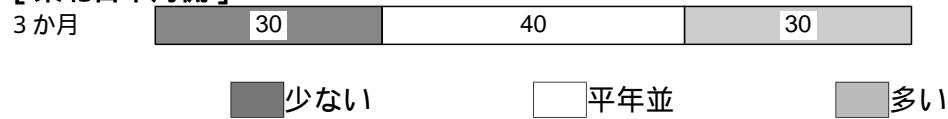


### [東北太平洋側]



## <<降雪量>>

### [東北日本海側]



### <次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は11月23日

3か月予報：12月25日(火) 14時

12月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

なお、寒候期予報として発表していた、この冬(12~2月)の予報については、今回の3か月予報等の最新の予報をご利用ください。

## <参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 平年値(月・3か月平均気温、降水量、日照時間、降雪量)

	気温( )				降水量(mm)				日照時間(時間)			
	12月	1月	2月	12月~2月	12月	1月	2月	12月~2月	12月	1月	2月	12月~2月
青森	1.3	-1.4	-1.1	-0.4	148.6	144.9	116.0	408.4	54.7	56.7	72.9	184.1
深浦	2.5	-0.4	-0.2	0.6	126.2	96.9	77.3	299.4	34.3	31.3	48.8	114.2
むつ	1.2	-1.6	-1.5	-0.6	93.3	96.0	84.9	273.6	73.7	77.0	91.8	242.4
八戸	1.6	-1.2	-0.9	-0.1	41.7	48.2	52.7	141.8	128.4	134.5	131.8	395.6
秋田	2.8	-0.1	0.2	1.0	163.8	114.4	92.0	370.0	47.6	44.6	65.6	157.8
盛岡	0.8	-2.1	-1.6	-1.0	64.5	50.6	54.9	170.1	104.4	124.0	128.9	357.5
大船渡	3.5	0.7	0.9	1.7	36.9	43.5	58.2	138.6	139.6	148.6	141.9	430.1
宮古	3.0	0.2	0.3	1.2	39.9	52.6	79.6	170.9	151.6	163.6	151.2	466.6
仙台	4.3	1.5	1.7	2.5	26.4	33.1	48.4	109.0	144.7	151.3	151.9	447.7
石巻	3.4	0.5	0.9	1.6	24.8	33.1	44.3	101.9	155.4	167.6	162.6	484.9
山形	2.4	-0.5	-0.2	0.5	77.2	75.4	70.2	222.7	85.1	89.6	99.3	273.2
新庄	1.4	-1.3	-1.0	-0.3	210.9	181.4	145.3	534.8	37.3	43.1	56.3	136.5
酒田	4.3	1.5	1.4	2.4	201.9	152.6	115.3	467.9	44.8	39.9	60.0	144.7
福島	4.2	1.4	1.8	2.4	32.5	43.8	49.8	126.5	130.7	136.6	144.3	411.4
若松	1.9	-0.7	-0.4	0.3	83.3	80.9	70.2	234.1	72.0	80.9	97.3	249.0
白河	2.7	0.2	0.5	1.1	25.0	30.6	41.4	98.5	157.8	160.9	152.4	470.3
小名浜	6.1	3.6	3.7	4.4	35.0	46.2	61.9	143.6	184.8	189.6	175.0	547.3

	降雪量(cm)			
	12月	1月	2月	12月~2月
青森	170	250	205	626
深浦	77	123	114	315
むつ	101	175	160	440
八戸	52	95	103	249
秋田	79	142	120	342
盛岡	68	106	98	274
大船渡	11	23	27	61
宮古	19	43	72	134
仙台	14	29	31	74
石巻	7	13	24	44
山形	92	163	147	403
新庄	168	283	242	694
酒田	64	138	119	321
福島	35	86	73	195
若松	100	185	160	447
白河	25	58	51	135
小名浜	1	5	7	12

欠測により平年値を求めるための資料年数(観測値のある年数)が各月毎に異なることなどにより、3か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

(2) 1971~2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	12月	1月	2月	12月~2月
気温平年差( )	東北地方	-0.3 ~ +0.5	-0.3 ~ +0.8	-0.4 ~ +0.5	-0.3 ~ +0.4
	東北日本海側	-0.2 ~ +0.6	-0.3 ~ +0.7	-0.3 ~ +0.4	-0.4 ~ +0.4
	東北太平洋側	-0.1 ~ +0.5	-0.3 ~ +0.8	-0.4 ~ +0.6	-0.2 ~ +0.5
降水量平年比(%)	東北地方	80 ~ 107	81 ~ 103	80 ~ 109	88 ~ 105
	東北日本海側	88 ~ 106	93 ~ 109	95 ~ 108	92 ~ 102
	東北太平洋側	69 ~ 116	62 ~ 104	69 ~ 117	79 ~ 112
降雪量平年比(%)	東北地方	72 ~ 112	85 ~ 106	78 ~ 118	86 ~ 113
	東北日本海側	78 ~ 113	96 ~ 110	87 ~ 115	89 ~ 110
	東北太平洋側	57 ~ 114	72 ~ 102	73 ~ 119	78 ~ 116

## <参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。

# 東北地方 3か月予報解説資料（12～2月）

平成19年11月22日 仙台管区気象台

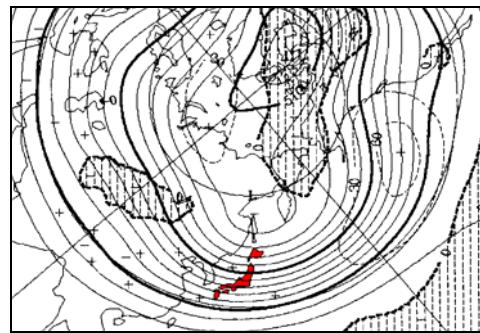
## 1. 向こう3か月の確率予報の特徴

	気温	降水量
12～2月	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
12月	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
1月	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
2月	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
12～2月の東北日本海側の降雪量は、各階級の確率の偏りは小さい		

## 2. 数値予報（アンサンブル予報）による大気の流れの予想

### 3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図（右図）：

中緯度帯はおおむね正偏差だが、北極付近（ロシアの北）にも強い正偏差域がある。冬平均では北極振動の寒気放出、蓄積どちらのパターンが卓越するかはつきりしないが、月別の予想（図略）からは予報期間の前半に寒気放出になるシグナルが若干見られる。ラニーニャ現象が発生しており、寒気放出のステージになった場合、寒気の南下を助長する可能性もある。冬を通してみると、寒気が南下し低温になり、東北日本海側の降雪量が多くなる時期と、寒気の南下が弱く高温になる時期があり、寒暖の変動が大きい見込み。



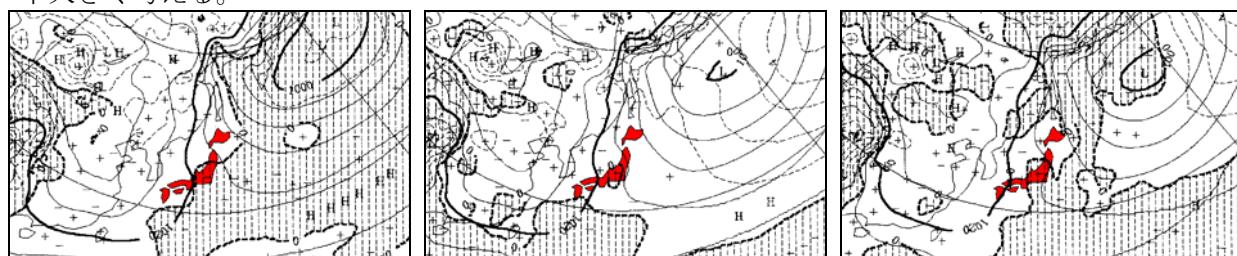
3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図  
実線は等高度線 60m 毎、点線は偏差 30m 毎  
陰影部は負偏差（一般に寒気に対応）

### 月別地上気圧と偏差の予想図（下図）：

12月：日本の西の高気圧は正偏差で平年より気圧が高く、東の低気圧は負偏差で平年より気圧が低い。平年に比べ冬型の気圧配置は強いが、上空の気温は平年並程度が予想されている（図略）。冬型の気圧配置が続かず暖かい時期もあるが、冬型の気圧配置が強まり寒さが厳しく、東北日本海側では降雪量が多くなる時期もある見込みで、寒暖の変動が大きい。月平均気温は「低い」可能性を40%と若干大きく考える。

1月：日本の東の低気圧は正偏差で平年より気圧が高く、冬型の気圧配置は平年より弱い。ただし、正偏差は低気圧の東側で大きく、日本付近の偏差は小さい。冬型の気圧配置が強まる時期もある見込みで、寒暖の変動が大きい。

2月：日本付近は冬型の気圧配置で偏差は小さい。おおむね平年と同様の天候を考えるが、上空の気温は平年よりやや高く予想されており（図略）、月平均の気温は、「高い」可能性を40%と若干大きく考える。

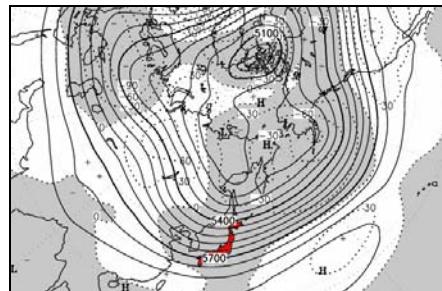


月別地上気圧と偏差の予想図（左から12月、1月、2月）

実線は等圧線 4hPa 毎、点線は偏差 1hPa 毎、陰影部は負偏差

## 3. 今月の循環場の特徴

11月(20日まで)：日本付近は負偏差（平年より高度が低く、寒気に対応）で、中旬に強い寒気が南下したことに対応している。

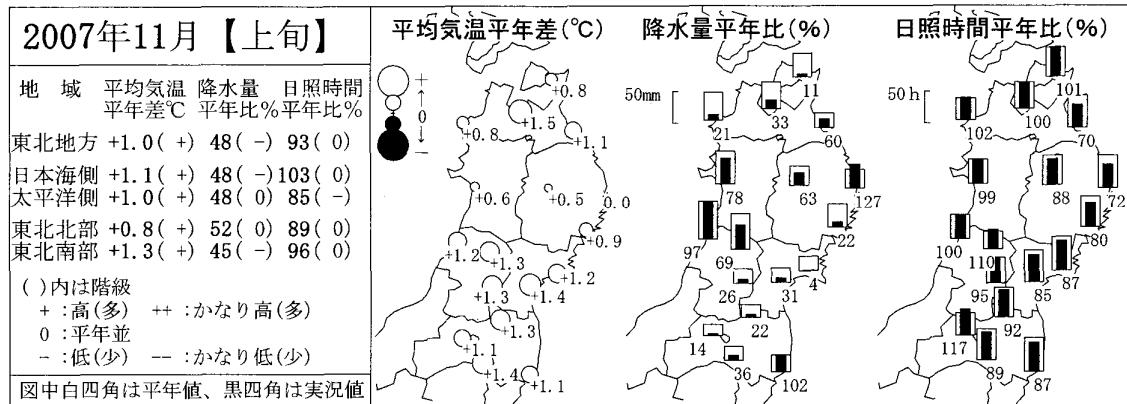


11月1～20日の平均  
500hPa高度と偏差  
実線は等高度線 60m 毎、  
点線は偏差 30m 毎、陰  
影部は負偏差

#### 4. 最近の天候経過

11月上旬：この期間のはじめと終わりは前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くたが、期間の中ごろは高気圧におおわれ晴れの日が多くた。

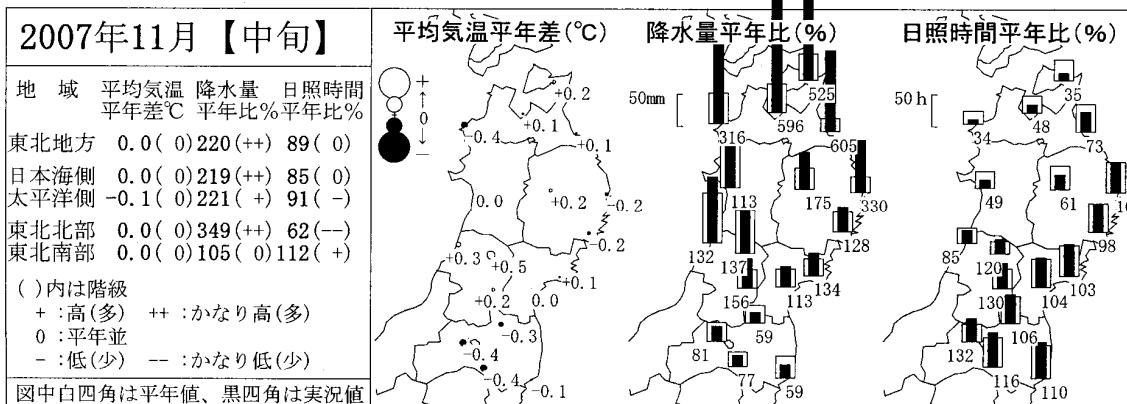
平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部で少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。



東北地方における11月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

11月中旬：東北北部や東北日本海側では、低気圧や上空の寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多くたが、東北南部の太平洋側では晴れの日が多くた。11～12日は低気圧が発達しながら東北地方を通過したため、東北北部では記録的な大雨となり、浸水害や土砂災害が発生した。15日以降各地で初霜、初氷、初雪が観測され、18～19日は東北日本海側を中心に大雪となった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部でかなり多く、東北南部で平年並。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で多い。

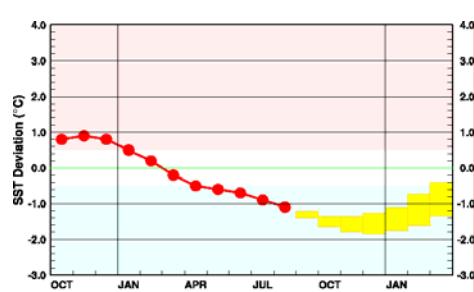


東北地方における11月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

#### 5. 太平洋赤道域の海水温等の状況（10月）、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

太平洋赤道域の海面水温は、中部から東部にかけて顕著な負偏差、西部で顕著な正偏差だった。海面から深さ数百mまでの水温や上空の風の状態などもラニーニャ現象時の特徴を示している。

エルニーニョ監視海域の海面水温は、冬の間基準値より低く、春には次第に基準値に近づくと予測される。ラニーニャ現象は2008年の春まで続く可能性が高い。



エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の5か月移動平均値の推移（折れ線）と今後の予測（ボックス）

#### ＜参考資料＞平年の天気出現日数（日）

	12月		1月		2月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	5.4	18.7	5.3	19.7	6.6	17.9
雨の日	19.1	6.6	19.6	7.1	16.6	7.0

晴れの日、雨の日は、それぞれ「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」を用いている。